

<大会概要>

SSH 担当教諭 宮崎 一

Global・Link・Singapore2019（以下、GLS）は7月26～28日の3日間行われました。

オーラルプレゼンテーション部門では、日本から社会科学分野に1校、自然科学分野に本校も含め5校が発表しました。

本番では、古田さんが持ち前の高い表現力を生かし、地球温暖化による海面上昇について聴衆に訴える問題提起を行いました。

山下くんは科学部の研究成果を淡々とした口調でありながら、わかりやすく伝えました。質疑応答では、予想外の質問ながらも2人で協力しながら答える様子が、本校のチームワークの良さを表していました。

育成枠で参加した2年生3名と1年生1名は、海外に自分たちの研究手法を広めて仲間を増やすために、不慣れな英語ながらも積極的に発表していました。

残念ながら受賞には至りませんでした。これは偏に顧問である私の責任であり、生徒たちは精一杯、持てる力以上の発表を行ってくれました。

私も含めて多くの学びを得たGLSでしたが、最大の成果は、先輩たちの姿に感銘を受けた2年生が「次は私たちが世界を目指す。」と言ってくれたことです。

現在の大学1年生の代から始めた研究ですが、着実に次の代へとバトンが渡されていることがわかり、感動いたしました。

次は、この2年生たちと3年生が残してくれたものを生かし、頑張っていきます。

GLSへの参加に際しましては、多くの方々からのご支援を頂きました。このご支援により、次の代に繋がり、生徒共々大変感謝しております。誠にありがとうございました。

GLS に参加して

天草高校 3 年 古田詩乃

私は 7 月 26 日から 28 日にかけて行われた「Global Rink Singapore」にオーラルプレゼンテーションで参加しました。

1 日目は、リハーサルがありました。実際のステージに立ってみると、いつも練習している教室とは規模も、雰囲気も違い、思うように言葉が出ず、リハーサルの出来はいいとは言えませんでした。リハーサル後、「明日の本番はこれではだめだ。」と思い、山下君と 2 人で反省点を挙げ、それぞれの発表部分を必死に練習をしました。その後、夕食後に「ハイヤ踊り」をステージで踊りました。はじめは緊張しましたが、参加者の方全員に手拍子をしてもらい、踊っている私たちを見て、ニコニコしながら楽しそうにしている参加者の方々の様子を見て、踊りながら自然と笑顔になりました。夜のホテルでも山下君と明日の本番に向け、何度も動きの確認をし、練習をしました。

2 日目はオーラルセッションがありました。海外の参加校、日本からの参加校の英語の発表を聞きました。特に他校の質疑応答には世界レベルのハードルの高さを感じました。本番前の最終確認を会場の外で行い、本番に臨みました。いざ発表の番になるととても緊張し、「本番中に話す内容が飛んでしまったらどうしよう」と不安になりました。本番では「いつも通りに」を意識して、自然なプレゼンテーションを心掛けました。一番の不安であった質疑応答は事前に英語科の先生に協力していただき、練習した甲斐もあって、時間はかかりましたが答えることが出来ました。海外参加校の発表を見て感じたことは、「海外の人たちも私たちと同じなんだ」ということです。抜群にプレゼンが上手かったり、英語が流暢なわけではないということが分かり、「海外」という世界を以前より近くに感じました。残念ながら受賞することはできず、とても悔しく思うと同時に世界のレベルに対して「自分はまだまだだな」と強く感じました。

3 日目には基調講演がありました。海外で働く海外の方のグローバルな課題についての講演を英語で聞きました。プレゼンテーションやスライドの作り方など、勉強になる点がたくさんあり、グローバルな課題に対する関心がより深まり、内容もとても興味深く、おもしろかったです。実際に海外で働いている方のお話を聞いたことで将来「自分も将来海外で働きたい」という思いが一層強くなりました。

今回、私たちが GLS に参加することができたのは、寄付金をくださった方々、いつも応援してくださっている同窓会の方々、地域の方々のおかげです。日本では経験できないような貴重な経験をたくさんすることが出来ました。温かいご支援と応援、本当にありがとうございました。支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

3月の下旬、僕たちはつくば Science Edge2019 で受賞し、世界大会出場という目標を達成し、新たな舞台へ挑戦することになりました。僕は海外に行くことに少し抵抗があり、さらには初めての英語での発表ということもあり、受賞の嬉しさと同時に不安がこみ上げてきました。

シンガポールに行くことが決まった後は、部活動はさらにハードになり土日ほとんど活動していました。研究中にはデータのミスなども多々あり、古田さんと二人でどうにかこうにかデータを集め、考察し、研究（発表内容）を完成させました。

しかし、これだけではなく研究が終わったら自分たちで英語の原稿を作り、英語科の先生に添削してもらい、ひたすら練習をしました。初めは、添削してもらった原稿を見てこんなに長い文章を本当に言えるようになるのかという不安がありました。

練習開始当初は、いろいろな人たちから指導を受けて心が折れそうになったこともたくさんありました。でもやるしかないと腹をくくってがむしゃらに練習しました。家でも、学校の休み時間中にもずっと練習していました。

そして、東京工業大学（宮崎注釈：GLS 参加者への東工大でのプレゼン体験会のことです）で初めて大勢の人の前で発表しました。発表直前はものすごく緊張しました。でも、その日の最後に東工大の先生方に今日の中では1番よかったと言ってもらい、とても嬉しく、さらにやる気が出てきました。

そのままの調子で行けばよかったのですが、本番の数日前に発表スライドにミスが見つかり、自分のパートの原稿が変わってしまいました。出発の直前までは変更した部分もある程度は言えていたのですが、本番直前のリハーサルでは、緊張と前日からの長時間の移動で練習できなかったこともあり、自分でも驚くほど言えなくなってしまいました。そして先生からは今日のリハーサルは100点満点中2点だと言われて本当に本当に悔しかったです。古田さんはしっかり言えていて、自分のせいで厳しい指導を受けてしまい、本当に申し訳なかったです。その日の夜は、ひたすら練習しました。

本番当日、多少の緊張はありましたが、今まで練習してきたことを信じ、発表しました。悔いがまったく無いわけではないですが、自分の力をしっかり出し、リハーサルのときよりも断然良い発表ができたので良かったです。

残念ながら賞をもらうことはできませんでしたが、多くのことを学ぶことができました。この学びを自分たちの今後に生かし、そして、後輩たちには自分たちが果たすことができなかつた世界大会での受賞を目指して頑張ってもらいたいです。

また、最後にはなりますが、このような大きな大会に出場できたのも同窓会の方々のたくさんのご支援のおかげです。このような形ではございますが、この場を借りてお礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

私は7月末世界大会に参加させていただき、ポスター発表を担当しました。この世界大会を通して学んだことはたくさんありましたが、特に学んだのは英語とプレゼン能力の重要性でした。まず、英語についてです。今回は世界大会ということで、ポスターは全て英語で書き、発表も全て英語で話さなければなりません。英語の単語、イントネーション、発音など英語の先生を中心にご指導をいただき練習を積み重ねました。しかし世界大会で実際に発表してみて、自分たちの研究を理解してもらうにはもっと英語能力を高めるべきだと身をもって痛感しました。自分が発表する英語の文章は暗唱できても、相手が質問してくる内容や言葉は初めからわかりません。だからこそ英語のリスニング能力やスピーキング能力がもっと必要になると感じました。次に学んだのはプレゼン能力についてです。今回ポスター発表をしたのは4人でした。個性を出すために各個人が発表する表現を考え、資料を作りました。私はプレパラートを作る動画を作ったり、シンガポールに咲いている花の花粉の写真などの準備をしたりしました。グラフや縮小版ポスターをラミネートするなどの工夫もがんばりました。「ポスターをどれだけ多くの人に見てもらえるか」「どれだけ分かりやすく伝えられるか」など、悩むこともたくさんありました。いざ、人に発表してみるとなかなか伝わらず苦労することもありました。しかし聞いてもらった人にアドバイスをもらうことで、更に発表能力をあげることができましたし、世界大会でも学んだプレゼン能力を次の大会でも活用していきたいです。他にもシンガポールで同じ班になった海外の人と友達になることができたり、海外の料理を食べたり、異文化交流も出来ました。またフェアウェルパーティーではハイヤを披露しました。踊っている最中でも観客の方が手拍子をして下さり、大いに盛り上がりました。シンガポールでは本当に貴重な体験をさせていただきました。今回賞をいただくことはできませんでしたが、この場で学んだことを次の大会に繋げていきたいです。そして来年は世界大会で賞が取れるように先輩たちの研究を引き継ぎ、日々の研究をがんばっていきます。この世界大会でご支援をしてくださったみなさん本当にありがとうございました。